

## 【建設 DX 実態調査】建設 DX のカギは、DX 推進部門との関係性強化と BIM 利用 ゼネコンの 77%が BIM を利用、建設 DX の推進や部門間の情報共有の効率化に BIM は不可欠

建設業界をアップデートする野原ホールディングス株式会社（所在地：東京都新宿区、代表取締役社長：野原弘輔）は、業界の環境配慮と生産性向上の両立を支援する建設 DX サービスとして、BIM 設計-生産-施工支援プラットフォーム「BuildApp」（ビルドアップ）およびニュースサイト「BuildApp News」（ビルドアップ ニュース）を提供しています。このたび、総合建設会社（以下、ゼネコン）に勤務する 267 人に「建設 DX の部門別実態調査」というテーマでアンケート調査を実施し、その結果を公表します。

今回の調査結果から、DX 推進部門と各部門の連携がうまくいっているゼネコンほど、営業・施工・購買調達・積算・設計と各部門の DX 化が進んでいることが判明しました。

### 【アンケート結果サマリー】

DX 推進部門と各部門の連携がうまくいっているゼネコンほど、営業・施工・購買調達・積算・設計と各部門の DX 化が進んでいる

### 【アンケート結果トピックス】

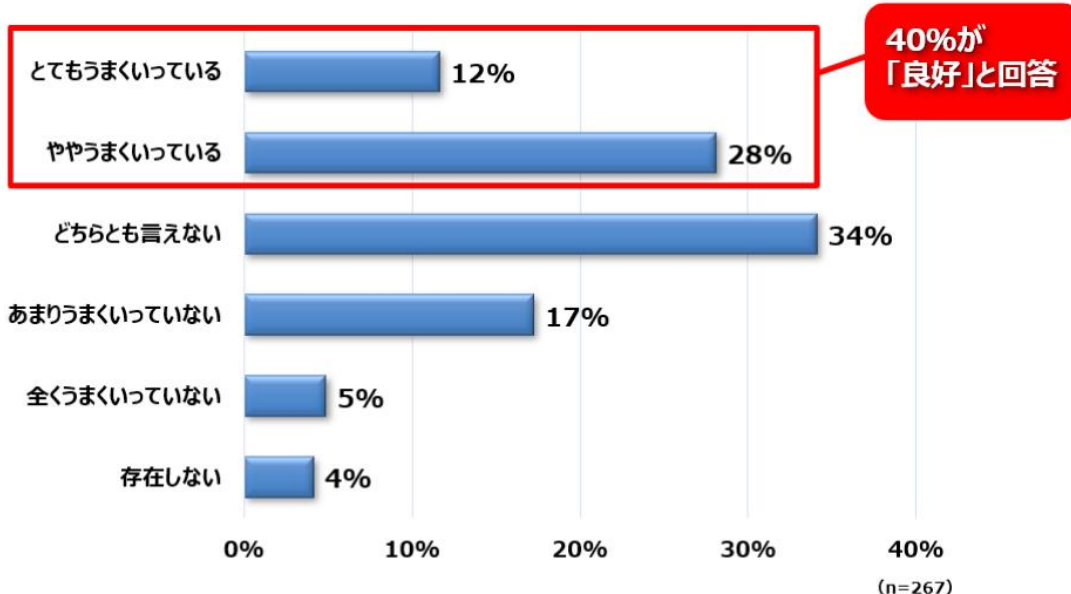
- ① ゼネコンの 40%が DX 推進部門との連携が「良好」と回答
- ② DX 推進部門との連携が「良好な」ゼネコンの 77%が BIM を活用
- ③ 連携が良好なゼネコンでもっとも DX が進んでいる部門は「設計が」83%でトップに

### <調査概要>

1. 調査方法 : ゼネラルリサーチ株式会社のモニターを利用した WEB アンケート方式で実施
2. 調査対象 : ゼネラルリサーチ社登録モニターのうち、全国のゼネコンにお勤めの方を対象に実施
3. 有効回答数 : 267 人
4. 調査実施日 : 2022 年 5 月 27 日（金）～ 30 日（月）

### ① ゼネコンの 40%が DX 推進部門との連携が「良好」と回答

#### DX推進部門との連携状況について



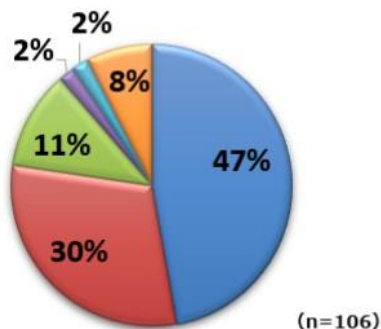
ゼネコン各社に「自社の DX 推進部門（BIM 推進部門、デジタル推進部門）との連携状況はどれにあてはまりますか？」というアンケートを行った結果、40%が「うまくいっている」と回答しました。

「どちらとも言えない」と回答したゼネコンが 34%と最も多かったものの、「うまくいっていない」「存在しない」と回答したゼネコンは 26%と少数であったことから、ゼネコン各社の DX 推進はおおむね順調であると推測できます。

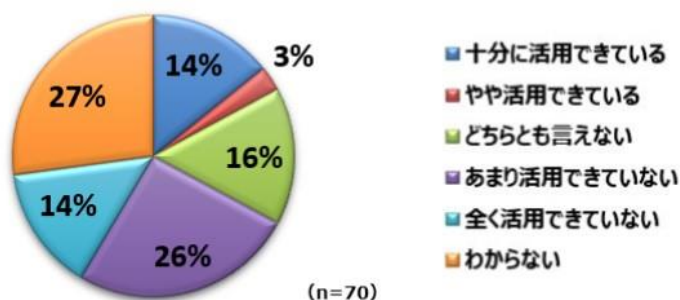
## ② DX 推進部門との連携が「良好な」ゼネコンの 77%が BIM を活用

### BIMの活用について

連携が「良好な」ゼネコン



連携が「良好でない」ゼネコン



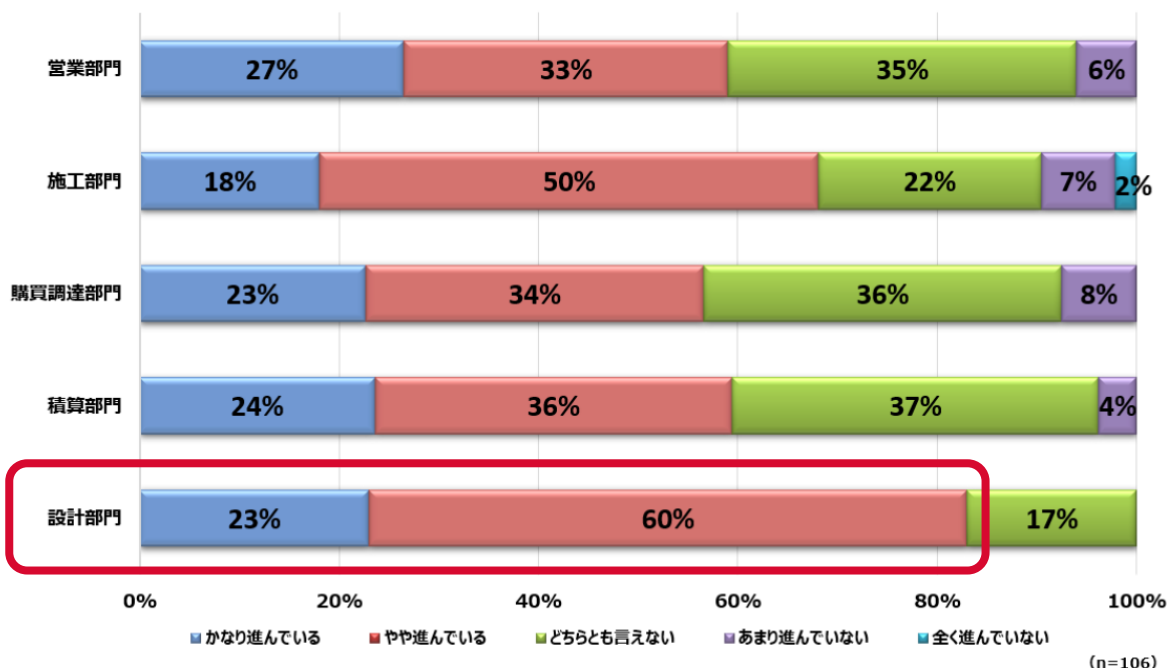
「あなたが担当する業務案件では BIM を十分に活用していると言えますか？」という設問に対し、自社の DX 推進部門と連携が「うまくいっている」と答えたゼネコンの 77%が「活用できている」と回答しました。

自社の DX 推進部門との連携が「うまくいっていない」「存在しない」と答えたゼネコンでは、担当業務で積極的に BIM を活用する割合はわずか 17%に過ぎません。自社の DX 推進部門との連携に成功しているゼネコンとそうでないゼネコンの間では、業務における BIM の利用割合に 60%もの差があることが分かります。

この調査結果より、建設 DX の推進や部門間の情報共有の効率化に、BIM は不可欠なツールであると言えます。

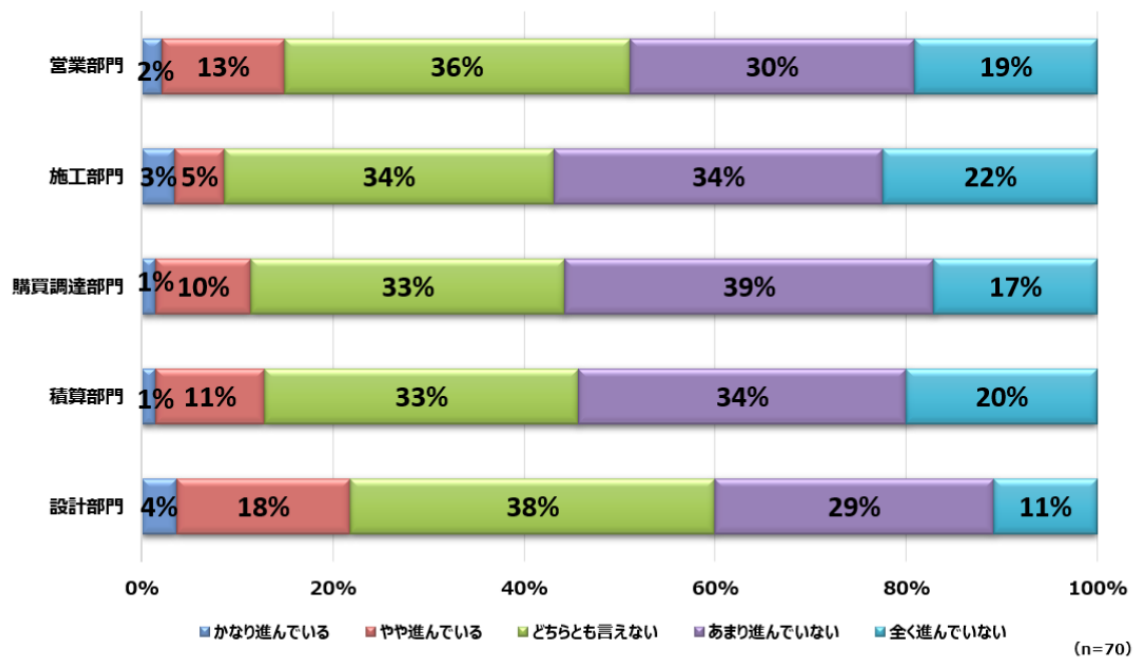
## ③ 連携が良好なゼネコンのうち DX が進んでいる部門は「設計」が 83%でトップに

連携が「良好な」ゼネコンの部門別DX推進について



自社の DX 推進部門との連携状況が「うまくいっている」と回答したゼネコンでは設計部門の 83%が、「DX は進んでいる」と答えています。このことより、設計部門で BIM を積極的に利用していることが予測できます。その他部門でも 60%以上と高い割合で DX が進んでいることから、部門に限らず業務で BIM を積極的に利用していることが推測できます。

### 連携が「良好でない」ゼネコンの部門別DX推進について



「自社の DX 推進部門との連携状況」が「うまくいっていない」「存在しない」と回答したゼネコンでは、施工部門におけるデジタル化の遅れが目立ち「DX が進んでいる」と回答した人はわずか 8%に過ぎません。自社の DX 推進部門との連携が良好なゼネコンは、そうでないゼネコンと比べて施工部門でも BIM 活用をはじめとする DX 化に積極的であると考えられます。

この他のアンケート結果は、「BuildApp News」(<https://news.build-app.jp/article/7323/>)に掲載しています。

### ニュースサイト「BuildApp News」(ビルドアップ ニュース)とは

「BuildApp News」(ビルドアップ ニュース)は、建設工程ごとに、建設 DX につながる BIM などのツールや導入事例、デジタルデータの活用方法等を、SDGs などのトレンドと共に集約し記事としてお届けすることで、建設プレイヤーの DX を支援します。記事を読むことで、最新の BIM 事例や DX の進め方が理解できる内容となっています。

#### ●「BuildApp News」 概要

名称	BuildApp News (ビルドアップ ニュース)
URL	<a href="https://news.build-app.jp/">https://news.build-app.jp/</a>
運営会社	野原ホールディングス株式会社
コンテンツ	ニュース、トレンドピックアップ、ツール紹介、DX 事例、データ分析など 7つのジャンルで記事を掲載 (詳細は次頁) ※設計積算、生産、流通、施工管理、維持管理の工程毎に記事を探しやすくしています。
記事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【動画付】日建設計独占インタビュー   BIM ハンドブックの使い方 (連載第 2 回) <a href="https://news.build-app.jp/article/6311/">https://news.build-app.jp/article/6311/</a></li> <li>●【BIM 事例 - 情報管理】鹿島建設 - 分析課題⑧設計、属性情報の管理プロセス (dRofus) <a href="https://news.build-app.jp/article/7250/">https://news.build-app.jp/article/7250/</a></li> </ul>

## ●記事ジャンルの紹介

記事ジャンル	概要
ニュース	建設 DX につながる情報をいち早くキャッチアップ、平日毎日更新し、DX の今をお伝えします。
トレンドピックアップ	ニュースの中から今おさえておきたいキーワードをピックアップして解説。“今さら聞けない”や、振り返りに役立ちます。
ツール紹介	DX には欠かせない建設テック、SaaS などをご紹介します。建設プロセスに合わせたジャンル分けで自社との関連性も把握しやすくなっています。
DX 事例	ツールを実際に導入した事例を幅広く紹介。こちらプロセス別に整理し、比較をしやすくします。
ガバナンス	建設業界において重要な業務であるガバナンスも DX によって、効率化や最適化が望めます。安全管理や法令順守等の観点からも DX の利点が把握できます。
データ分析	国土交通省や研究機関から発表されるデータを元に現況の把握や将来に向けて傾向を提示します。
独自取材	建設業界の変革を担うプレイヤーへ独自に取材を行い、その想いや取り組みをご紹介します。初回は、第 1 回建設 DX 展の出展社レポートをお届けします。

【BuildApp News】 <https://news.build-app.jp>



建設 DX や BIM に関連する業務役立つニュースを配信しています。

## BIM 設計-生産-施工支援プラットフォーム「BuildApp」（ビルドアップ）

「BuildApp」はすべての建設事業者の DX 推進や部門間の情報連携に寄与する BIM 設計-生産-施工支援プラットフォームです。

### ●サービス概要

弊社は、政府によるデジタル化推進や、2050 年までのカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）宣言を踏まえ、DX による現場の課題解決や産業廃棄物・CO2 の削減に取り組む企業を支援したいという想いから、「BuildApp（ビルドアップ）」を開発しました。

名称	「BuildApp（ビルドアップ）」（β版）
開始時期	2022 年 1 月
価格	β版は月額費用無料、初期費用はお問い合わせください。
お問い合わせ	BuildApp サイトお問い合わせフォーム： <a href="http://build-app.jp/contact/">http://build-app.jp/contact/</a> メール： <a href="mailto:info@build-app.jp">info@build-app.jp</a> / 電話：03-6367-1634
Web サイト	<a href="https://build-app.jp">https://build-app.jp</a>

### ●サービス詳細

「設計積算」や「施工管理」は勿論、各プロセス別やプロセスを繋ぐ課題やご要望に応じて、最適なサービスを提供します。詳細はお問い合わせください。

【BuildApp ブランドムービー】 [https://www.youtube.com/watch?v=o\\_HNluRrCeQ](https://www.youtube.com/watch?v=o_HNluRrCeQ)

【BuildApp サービス紹介ムービー】 <https://www.youtube.com/watch?v=BA6x5Dv51CU>



## BuildApp サービスマップ



工程	サービス（一部開発中のものあり）	内容
設計 積算	2D 図面の AI 拾い・3D データ化	平面図から内法面積を自動計測、3D データへ変換
	BIM モデル詳細化属性情報追加	BIM データに建材等の構成情報を追加し詳細化
	BIM 活用コンサル／施工 BIM 作成	BIM 導入の支援／施工図作成
	5D 自動積算・見積／工事店応札	建材単価や労務データを蓄積し自動積算、見積・入札まで
生産	BIM-プレファブ・プレカット	BIM 連携による正確なプレカット施工の実現
	建具施工図自動化／建具 BIM 生産連動	建具施工図を自動作成、承認が Web 上で可能 BIM と製作 CAD の連動による生産プロセス改善
流通	建材 EC／工程連動自動手配	BIM と EC 連携による発注作業の効率化
	現場納入／揚重 <sup>3</sup> 管理連携	BIM と建材およびその揚重・荷捌きのデータ連携と 作業状況の可視化
施工 管理	4D 工程管理連携／施工管理支援	BIM と工程管理や業務効率化ツールとの連携、現場効率化支援
	xR <sup>4</sup> 施工履歴管理	3D 撮影データによる工程ごと施工履歴管理が可能
維持 管理	ファシリティマネジメント竣工情報連携	BIM とデジタルツイン <sup>5</sup> 情報を連携、竣工データ化
	竣工 BIM モデル／竣工デジタルスキャン	建物の空間をオンライン化し 3D デジタルツイン <sup>1</sup> を提供

### 野原ホールディングス株式会社について

野原ホールディングスを中心とする野原グループは、「CHANGE THE GAME. クリエイティブに、面白く、建設業界をアップデートしていこう」のミッションのもと、これまで培ってきた知見をさらに磨き未来につなげていくことで、より一層社会に貢献して参ります。

<https://nohara-inc.co.jp>



#### 【お客さまからの問合せ先】

野原ホールディングス株式会社  
建設 DX 推進統括部  
e-mail : info@build-app.jp

#### 【報道関係者からの問合せ先】

野原ホールディングス株式会社  
マーケティング部 (担当 : 齋藤)  
e-mail : nhrpreso@nohara-inc.co.jp

- 
- 1 DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、経済産業省に定義によれば「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」を指し、単なるデジタル活用とは区別されています。
  - 2 BIM（ビム/Building Information Modeling の略称）とは、建築物のデジタルモデルに、部材やコストなど多様な属性データを追加した建築物のデータベースを持たせ、設計・施工・維持管理の各プロセスを横断して活用するためのソリューションです。野原グループでは、2017年よりBIM事業に注力しています。
  - 3 揚重とは、建設作業所（建設現場）の搬入口にトラックなどで運搬されてきた建築資材を、指定された建築中の部屋や場所に、必要な数量に振り分け運び入れる業務を言います。
  - 4 エクステンデッド・リアリティ（Extended reality、XR）とは、「VR」「AR」「MR」などの総称。VR（仮想現実）は、仮想の世界を現実のように体験できる技術。AR（拡張現実）は、現実の世界に仮想の世界を重ねて体験できる技術。現実世界の映像があり、その上に仮想世界の情報が重なるイメージ。MR（複合現実）は、現実と仮想世界を“融合させる”ことができます。
  - 5 デジタルツインとは、現実の世界から収集した様々なデータをまるで双子であるかのように、コンピュータ上で再現する技術を言います。